



## 会長が交代しました

令和5年6月23日に行われた理事会にて、大副祥一会長が退任し、顧問に就任するとともに、新たに西村邦夫会長が戸塚区社会福祉協議会の会長に就任いたしました。これからも皆様のご理解・ご支援のほど宜しくお願いいたします。

### 前会長退任あいさつ

令和3年6月新型コロナウイルスが猛威を振るい、東京オリンピックが開催されている最中に就任いたしました。

コロナの影響で我々が目指す「住民参加による地域福祉活動」がままならず、地域で活躍されている地区社協の皆さん歯がゆい思いをされています。そのような中で感染予防をおこない、工夫をしながらイベントを開催してきた皆様に感謝致します。

福祉の使命である、ハートプランの基本理念「誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現」を社協としても目指してまいります。

心残りはコロナの影響で地域に出向き、みなさんの行事に参加できなかった事です。

二年という短期間でしたが皆様に支えていただきながら、職務を遂行出来ました事を心より御礼申し上げます。



前会長 大副 祥一

(就任任期:令和3年6月24日~  
令和5年6月23日)

### 新会長就任あいさつ



新会長 西村 邦夫

(就任月日:令和5年6月23日~)

この度、大副前会長の後を受けて、会長を拜命させて頂きました西村邦夫でございます。

私は、戸塚第二地区の社協の会長として9年になりますが、まだまだ素人で、力不足の点はありますので、皆様方のご支援ご協力お願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルスが第5類に位置付けられ感染騒動が収まったかに思われましたが、ウクライナ戦争を契機としてエネルギー価格の高騰、食糧不足、物価高騰に加えて、日本特有の少子高齢化社会の到来で、社会が大きく変化してきました。

係る社会が大きく変動するときは、生活弱者にしわ寄せが行くことが多いので、そのようなことの無いように心がけ、誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現に向けて活動していきたいと考えております。

本会では、子どもから大人までのあらゆる世代・年代の方が安心して自分らしく暮らせる地域づくりを応援しています。

今号では、with コロナ時代に移りゆくなか、感染対策をしながら繋がりのお機会を絶やさない活動に取り組む3団体を、社協とつが編集会議メンバーが取材しましたので、ご紹介します。

## 下倉田地区 なでしこ食事サービス

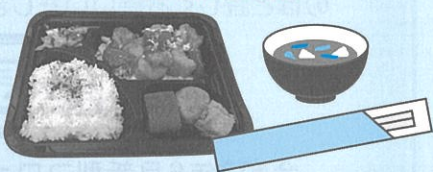
なでしこ食事サービス(ミニデイサービス)では、ボランティアによる高齢者対象のお弁当づくりと、そのお弁当を月3回、各会場に配達し、会食を行っています。この活動は、地区社協が中心となり約20年前から始まりました。介護予防の一環で行っており、各自治会町内会館で民生委員さんが見守りを行っています。担い手の方々は、高齢者の方が元気に地域で暮らして欲しいという思いで活動しており、献立を考える時にも様々な配慮を心がけていました。お弁当の配達は高齢者施設の「戸塚共立結の杜下倉田」の方が、社会貢献として行って下さる等、様々なネットワークを活用して継続的に実施しています。

コロナ禍では、中々活動が出来ない状況でしたが、再開に向けて、昨年度はボランティア全体の研修会を実施しました。茶話会から段階的に始め、今年5月からお弁当をお出しする形で始めることができました。時代の変化に伴い、変わっていくこともありますが、立ち上げ当初の思いや、つながりを大切にしながら活動を継続するとともに、次の担い手にも繋いでいきたいと考えています。

取材時も、ボランティアが多く、みなさんとても楽しそうに活動されていました。当初始めた目的や思いを大切に続けること、地域の様々な資源やネットワークと協力しながら活動していくことが、長く継続していくために重要なことだと感じました。



お弁当作りの様子



**活動日** 月3回(各自治会町内会ごとに異なる)  
**場所** 下倉田地域ケアプラザ(下倉田町1951-8)、  
 下倉田地区各自治会町内会会館  
**費用** 自治会町内会ごとに異なる  
**主な対象者** 75歳以上の1人暮らし及び日中一人暮らし高齢者



取材者より

下倉田地域ケアプラザの厨房室に特注調理台が! 10人余のボランティアの動きはスムーズで、さすがベテランぞろい無駄な動作がない。お互いに楽しんで調理している様子に「きつと美味しいんだろうな」と思わせる雰囲気にあふれていました。

## 大正地区 みんなの居場所 夢カフェ

みんなの居場所夢カフェは、同地域で実施されている高齢者サロンを長年運営しているNPO法人夢みんを中心に、地域団体の皆さんと4年にわたる検討を重ね、多世代交流拠点として今年4月にオープンしました。現在は週5日カフェの運営をしながら、カフェを利用しない方も利用できる居場所を提供しています。

また、様々な人に拠点を知ってもらうために、毎月広報紙を3,500部作成し、ボランティアの皆さんや障害者施設のお力を借り町内会内へ全戸配布しています。ボランティアの皆さんは長年地域で活動してきたことでのつながりのできた方や、夢カフェに来る子育て世代の親御さん等の参加者に声がけし、出来ることを出来る範囲で出来る人に協力してもらうことで、負担なく継続的に協力してもらっています。担い手不足で継続が難しい団体が多くある中、様々な工夫により協力者を増やしていることが素晴らしいと感じました。

代表の伊藤さんは「将来的には、小さなお子さんから高齢者、子育て世代の親御さん等、みなさんがつながり、自然に悩みを話せる場になってほしい。また、今後は様々なイベントの開催等で、拠点を地域の方に活用してもらい、より地域に身近な場所になれば良いと考えている。」とお話されていました。

取材中も小学生が、当たり前のように入ってきて、遊んでいる様子を見ることができました。早くも子どもたちの憩いの場になっていると強く感じられました。



オープンイベント時の様子



**開催** 毎週水～日曜日  
**場所** みんなの居場所 夢カフェ  
 (深谷町1408-24 旧うおしち跡地)  
**費用** 無料(飲食代別) 主な対象者 全世代



取材者より

地域で何かできることをしたいと思う気持ちが集まって、原動力となり、いきいきと活動している姿に感動いたしました。また、多世代間の交流で生まれるネットワーク、コミュニケーションが刺激になり、様々な人たちが出会える居場所が生まれると思えました。



取材者より

近所の方々や町内会の人々が集まって安心して交流を深められる場所として最適ですね。全戸配布される広報紙、お手伝いされている方々の組織力も立派です。



取材者より

開所から日が浅いにも関わらず多くの方がいろいろな事業を行っていることに驚きました。準備段階で時間をかけて話し合いを行い、きちんとしたコンセプトが共有されているからかと思えます。大変なことも多いと思いますが頑張ってください。

## 汲沢地区 ぐみカフェ

ぐみカフェは地域の人たちが外に出る機会、人と人が出会い話をする機会をつくることを目的に、令和元年4月よりスタートしました。開催から1年が経とうとしたところで、コロナウイルスが猛威を振るい中止を余儀なくされました。そんな中、地域からの「集まれる機会が欲しい」という声もあり、担い手と地域ケアプラザで活動内容を検討。映画や映像を見る、ぐみシアターとしてコロナ禍中に活動を再開し、以後継続的に開催しています。今年度からは、人数制限を解除したことで多くの人が参加できるようになりました。そのため、映画鑑賞のほか、地域で活動している団体等に協力してもらい、レクリエーションの時間をつくるなど、参加者が毎回参加しても飽きないような工夫をしています。また、活動の中で提供しているコーヒーは、担い手の方がこだわり抜いて厳選したコーヒー豆をその場で挽いて提供し、参加者からも好評をいただいています。活動されている方は、「今後は参加者からの要望から企画を考え、毎回楽しんでいただける場を継続的に実施していきたい」とお話されていました。

取材日はウクレレ活動団体「か・ぶあうい」の皆さんがウクレレとフラダンスを披露し、時には参加者と一緒に歌ったり、体を揺らしたりと全員が楽しい時間を共有していました。



催し物(ウクレレ)の様子

コーヒーを準備するボランティアの皆さん



取材者より

はじめて聴いたウクレレの音色と様々な懐かしいメロディはとても心地よく響き、思わず身体が動きだしハミングしていました。輪唱や軽い体操と演奏者の想いにも触れることができました。

**開催** 毎月第3水曜日  
**場所** 汲沢地域ケアプラザ(汲沢町986)  
**費用** 200円(コーヒー・菓子代)  
**主な対象者** 全世代



取材者より

スタッフの皆さんが、ハツラツと笑顔で活動されていらっしやっただが印象に残りました。コロナ禍で多くの集いの場が長期に休止していた中、数ヶ月の休止で感染症対策を行うことで活動再開されたとお聞きし、スタッフ及び参加者の方々のぐみカフェに対する想いが伝わってきました。

## 令和4年度 戸塚区社会福祉協議会事業・決算報告

令和4年度は、新型コロナウイルスの感染者数の減少がみられ、地域においても少しずつ行事等が再開した1年でした。本会でも戸塚区ふれあい区民まつりの福祉ブースへの障害者施設のみなさんとの出店や令和4年度戸塚区社会福祉大会及びとつがハートプラン活動発表会を戸塚公会堂で開催することができました。決算報告での変化としては、一昨年度よりコロナ禍で経済的な影響を受けた方に対する特例貸付の受付対応を行っていましたが、年度内に受付を終了したため、受託金収入が昨年度に比べ減少しています。

収入の内訳		支出の内訳	
受託金	34,358,342	助成金	18,265,053
会費	5,288,920	人件費	22,598,056
補助金	10,017,899	事業費	15,360,340
共同募金配分金	11,389,362	事務費	3,046,655
事業収入	478,980	その他の支出	1,749,142
寄附金	1,003,267	合計	61,019,246
その他の収入	2,528,757		
合計	65,065,527		

※前年度繰越金・繰入金収入を除く



## 善意銀行（寄付の窓口）～あなたの善意をお預かりします～

区民の皆様から善意の寄付（金銭や物品）をお預かりし、地域の福祉施設やボランティア団体（子ども食堂、地域サロン）などに配分し、地域の福祉活動を支援しています。ご寄付がございましたら、ぜひ本会までご連絡ください。

**寄付者一覧（順不同、敬称略、2022年7月1日～2023年6月30日）ご寄付ありがとうございました。**

中島亘子（リフォーム教室麻の葉・かなグループ）、ユニ株式会社アピタ戸塚店、株式会社清光社、牧野豊、ブリヂストン労働組合横浜支部、戸塚西口共同ビル管理組合、神奈川土建一般労働組合横浜戸塚支部、戸塚第三地区更生保護女性会、戸塚ルーテル教会附属幼稚園、横浜西部読売会、戸塚区少年野球連盟、横浜東戸塚ライオンズクラブ、公益社団法人戸塚法人会女性部、とつかルーテル保育園保護者有志、鈴木カズ子、六国建設株式会社、ONE FOR ALL 横浜地域交流室（株式会社横浜メディカルケア）、一般財団法人ポケモン・ウィズ・ユー財団、資生堂ジャパン株式会社、金原紀夫、全日本不動産協会神奈川本部横浜支部、一般社団法人バンクフォースマイルズ、さくらや横浜店、パタゴニアインターナショナルインク、加藤久美子、戸塚区民舞踊連盟 匿名6名



### 寄付者への ありがとうメッセージ

お米の寄付を受け取った  
保育施設のお子さんより

入園入学用の手提げバッグ  
の寄付を受け取った施設  
のお子さんより



連載

## 福祉人材シリーズ 戸塚の輝くひと

vol.18

### 一名瀬地区の特徴を教えてください

戸塚区の最北端に位置しており、中央を名瀬川に沿うように名瀬道路が走り、名瀬川や豊かな緑といった自然に恵まれています。昔、「九十九谷戸」と言われた地で今も数多くの谷戸の姿を残す貴重な地域です。市民の森も整備され、毎年開催している「名瀬のまちを歩こう」では里山を歩いています。また、高齢者施設等も多く立地し地域内の連携をより進めています。

### 一地区社協の活動について教えてください

コロナも収束に向かい、ようやく4年ぶりに社会福祉大会（総会及び演芸）を、5月に開催することができました。地区社協の活動を地域の方に広くお知らせしてご理解いただけるように続けている大切なイベントです。その他、多くの事業も今年は本格的に再始動できる事と楽しみにしています。また名瀬地区ハートプランも連合町内会とともに積極的に推進しています。「新たなボランティア、担い手づくり」、「水と緑の資源を生かした地域づくり」、「地域交流、多世代交流のできる場づくり」という目標はボランティア精神の旺盛な地域の方々のご協力で「ラジオ体操」や、「買物支援」、「なせホット食堂♥（地域食堂・こども食堂）」などという形で着々と実をむすんでいます。一人一人の力は小さくても、人々が集まって力を合わせれば、暖かい地域作りに素晴らしい力を発揮されることを目の当たりにしてきました。その一人一人を繋ぐのが地区社協の大切な役割だと感じています。

### 一これからの地区社協活動についてどのように考えていますか

誰もが安心して暮らせる地域のために、地域の声を大切に、できる事を一つずつ取り組んでいきたいと思います。まずは、これまでやってきた多くの事業のブラッシュアップからかな?と考えています。

### 一ひとこと

名瀬地区は自然と人材の宝庫だといつも感心しています。次の担い手さんも、その活動を通じて育ててくれているのではと期待しています。



名瀬地区社会福祉協議会  
会長 荒木 三和子さん

「社協とつか」は区民の方々から寄せられた共同募金の一部を用いて発行しています。